

ご協力いただける方、募集中です！



ボランティアさん

子どもと遊ぶのが好きな方、事務局のお手伝いを一緒にして下さる方、お待ちしております。

小児待合室活動日

毎週月曜日・木曜日、第2土曜日・第4日曜日 午前11時～午後2時

後援会員さん・ご寄付

この団体の活動は、みなさまの会費とご寄付や助成金で行っています。ご理解とご協力をお願いいたします。

後援会員…ご入会頂くと「こどものちから通信」をお届けします。

◆個人3,000円/年 ◆団体(1口)10,000円/年

ご 寄 付…みなさまのあたたかいお気持ちは、きょうだいさんの笑顔を増やす活動に大切に活用させていただきます。

◆<こどものちから>の1年は、4月から翌年3月までです。

お振込先

郵便振替番号:00170-7-571697

□ 座 名:特定非営利活動法人こどものちから

お問い合わせ・発行元

「特定非営利活動法人こどものちから」事務局
〒136-0073 東京都江東区北砂 5-20-18-211
TEL:080-6867-6135

メールアドレス:tarumifight@yahoo.co.jp

※独立した事務所がございませんので、ご連絡は上記メールアドレスまでお願いいたします。

Facebook:<https://www.facebook.com/kodomonotikara>

ホームページ:<http://kodomono-chikara.org/>

<協力団体>大原薬品工業株式会社

株式会社ソフトクリエイティブホールディングス
クリフォードチャンス法律事務所

たくさんの方々の個人の方々や企業の方々から頂きました。いつもお心に留めていただきありがとうございます。
代表 井上るみ子



病院に連れて来られても病棟に入れないうだいさんに遊んでもらう活動をしています。



2020年はコロナでいろいろなことを我慢する年でしたが、皆さんにビタミンカラーで元気を贈りたい。また2021年は丑年なので、のんびりと癒やしをと思って牛さんを添えました。コロナが収束してくれることをせつに願っています。

<制作者 スタッフ・さいとう はるみ>

No.20 2020.12月発行

～「小児看護9月号」に掲載されました～



名古屋大学大学院、新家一輝准教授からお声がけ頂き、「小児看護9月号」に6ページ弱の文章を寄稿させていただきました。内容は、私(井上)の体験から団体立ち上げに至る経緯。そして活動で出逢ったきょうだいや病児・きょうだい・家族の特に心に残るエピソードの一部を紹介させていただきました。「人のいる待合室」は、きょうだいと遊びながら病児と家族を支える場所であったり、きょうだい同士をつなぐ場、育児相談の場、時には死に直面するきょうだいを支える場となります。この環境は、活動にご理解とご協力くださる皆さまのお力があればこそできるものです。深謝申し上げます。

井上 るみ子

スタッフ・ボランティアさんの感想

「井上さんのいる待合室」

病気の告知から始まって治療の生活は、緊張と不安と不自由さでいっぱいになります。『病院にきょうだいの居場所がある意義』を書かれた井上さんは、4人の子育ての真っ最中に、母親としてこの経験をされました。それまでの井上さんが4人のどの子も愛して、骨身を削って育てていた事は、容易に察する事ができます。でも、不運な事に1人のお子さんががんが発症してしまったのです。今までの生活が一変して、ご家族全員が、緊張と不安と不自由さを強いられてしまいました。

私から井上さんに言ってあげたいです。「過酷な環境の中で、その時にできる精一杯の事をやったのですね」と。しかし、井上さんは首を縦に振らないでしょう。「いいえ、やらなくてはならない事がまだあるのです。あの時に十分に時間が掛けられなかった3人の子ともとどう過ごしたら良いのかを、考え続けたいのです。」3人のお子さんのあの時を巻き戻す事はできませんが、今子どもである患児さんのきょうだい児と関わり続ける事が、あの時間を取り戻す事に繋がったら、と願っていらっしゃるのではないのでしょうか。

8つの事例は、何と愛に満ち溢れた関わりでしょう！きょうだい支援というと、「きょうだい児の為に、何かをしてあげる」と捉える活動も多い中、「NPO法人こどものちから」では、家族の中のきょうだい児を柔らかく見守っている姿を感じました。

スタッフ・山森 マリ

活動報告

新型コロナウイルスの感染症対策のため、残念ながら3月26日(木)の待合室活動を最終日に休止状態となり、未だ活動再開には至っておりません。(; ;)

- ◆7月12日(日) 病棟ヘガーズマスク寄付(大人用48枚・子ども用52枚)
- ◆7月 がんセンターから寄付受領書(お礼状)、12A病棟荒井師長からお礼状届く
- ◆7月28日(火) 東京ボランティア・市民活動センター主催「ききマネ講座」参加
- ◆8月21日(金) へるす出版社「小児看護9月号」届く
- ◆8月30日(日) 病弱教育研究会主催「学習会」講演
- ◆10月10日(土) きょうだい支援を広める会主催「きょうだい支援実践報告会」
- ◆10月22日(木) 難病のこども支援全国ネットワーク主催「プレイリーダ-養成講座」講演
- ◆10月27日(火) 上智大学「生と死のケアリング・コロキウム」講演
- ◆11月15日(日) NPO法人しぶたね主催「東京シブパネル」参加
- ◆11月16日(月) 小児待合室のおもちゃと絵本の移動
- ◆11月18日(水) 病棟へしゃぼん玉・水風船など数点、寄付
- ◆11月26日(木) がんセンターから寄付受領書(お礼状)、届く
- ◆スタッフ・ボランティアによる「クリスマスカード説明及び作成会」計4回実施
- ◆12月18日(金) 通信20号発行

予定の変更や中止

- ◆5月10日(日)「こどもまつり」、中止させていただきました。
- ◆6月21日(日)「藤田浩子さんのおはなし会」、21年2月21日(日)に変更
- ◆8月29日(土) 網膜芽細胞腫の子どもをもつ家族の会「すくすく」の勉強会はZOOMにて開催されたため、保育中止。
- ◆10月11日(日)「病院でプラネタリアム」、21年3月14日(日)に変更
- ◆11月29日(日)「クリスマス工場」、中止させていただきました。

今後の予定

- ◆1月12日(火) 神奈川県座間市健康部健康作り課、講演
- ◆2月7日(日) 団体内研修「クワケケ-ジョン-ワ-クジョッ」開催
- ◆2月21日(日) 「藤田浩子さんのおはなし会」開催
- ◆3月14日(日) 「病院でプラネタリアム」開催
- ◆5月9日(日) 総会
- ◆6月17日(金) 通信21号発行

詳細は決定しだい、ご連絡いたします。

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更されることがあります。



妖怪アマビエ



◆三菱食品株式会社さま

またまたカリンバをいただきました。いただいたカリンバは、難病のこども支援全国ネットワークさまのご協力のもと、ご自宅で療養されているお子さんやきょうだいさんへお届けさせて頂きました。

◆森のライフスタイル研究所さま

カリンバの中継をしてくださりありがとうございます。ご自宅での療養は、常に緊張感がいっぱいです。優しい音色は、聴く人にとっても心地良く心をほぐしてくれるようです。

◆株式会社アデランスさま

子ども用フットマットをいただきました。温かい素材を使ったかわいいデザインは、子ども達の人気の的になると思います。

◆ソフトクリエイトホールディングス株式会社さま

ご寄付をいただきました。新人社員のボランティア研修が見送りになってしまい、とても残念でした。新型コロナウイルスが収束し、活動が再開されれば、通常ボランティアと合わせて研修もどうぞよろしくお願いいたします。

◆ボランティアさんから

『結び』の七夕短冊や「おもちゃ」をいただきました。待合室活動が再開されましたら、子ども達と一緒に楽しませて頂きます。



◆病棟のお友だちや親御さんにガーゼマスクを送らせて頂きました。すると12A病棟の荒井師長さんのお計らいで、かわいいお知らせとともにカウンター上に設置して頂いたり、お礼状を頂くことができました。

◆情報産業労働組合連合会さま、「愛の基金」による事業助成金をいただきました。お忙しい中、間を取り持ってくださいました楠さま、ありがとうございます。

企業の皆さま・後援会員の皆さま・活動に関心を持ってくださった皆さま、新型コロナウイルス感染症でほとんどの活動が休止となる中であっても、活動資金をご寄付いただきました。みなさまの温かいお心遣いに深く感謝申し上げます。繋がったご縁を継続出来るような工夫と再開後の待合室活動や交流会イベント活動の運営費として、大切に活用させていただきます。



「小児看護」を読んで

井上さんと松本さんに初めてお会いしたのは、友人と参加した小さなチェロのコンサートでした。1年半前の夏のことです。お話をする中で「こどものちから」の活動を知り、すぐに参加を希望しました。ただ子供が好き…ということだけで。

何回かの参加では分からなかったことが、この「小児看護」の活動記録を拝見し、待合室が出来、この活動が生まれた経緯が手に取る様にわかり感動しました。人のいる待合室の存在の意味を噛み締めました。

事例はルーキーボランティアの私には、心に染み、気持ちも新たになりました。

当初はお一人で月2,3回活動なさっていたものが今の形になり、更に様々な活動へと広げられた井上さん、松本さんの優しさ、強さ、健気さを感じ、子供たちへの向き合い方を学ばせて頂きました。新米ボランティアの私にとって、この活動記録は、大切なバイブルとなりました。

一日も早くコロナが収束し、待合室が再開出来ることを祈り、又、子供たちと会える日を楽しみに致します。

ボランティア・関 淑子

井上さんに教えてもらったこと ～『小児看護』を読んで～

井上さんとお会いしたのは2017年の夏、人づてで待合室の活動を見学させていただいたのですが、当時、病児やきょうだい児について知らなかった私に丁寧に説明して下さり、その明るい人柄に触れてそのまま活動に参加させていただくことになりました。

そんな井上さんが『小児看護』に寄稿すると聞いて、ちょっと立ち読みでもと思って書店に行きましたが、読み始めると、「これはゆっくり落ち着いて読まなければ」と思いました。活動では子供や親御さんと接する朗らかで穏やかな姿しか知らなかったのも、読み始めてかなり衝撃を受けました。「こどものちから」を立ち上げるには悲しい出来事があったであろうことは理解していたつもりでしたが、残されたご家族が素直に語り合えるまで長い年月が必要であったこと、そんな中でも、「今」大変なご家族のために笑顔で寄り添う活動を続けるにはどれほどの覚悟が必要だったか。その覚悟を自分が完全に理解することはできませんが、後半のエピソードはどれも考えさせられ、「場所」を活かす「人」になれるように、

今後の自分の活動に大切な事を教えてもらいました。

ボランティア・楠 慎也

☆クリスマス工場☆
～スタッフ・ボランティアさん達とがんばりました～

お友だちに『笑顔』が届きますように！！

- ◆開催日時：①9月13日(日) 午後1時～4時
②9月26日(土) 午後1時～4時
③10月11日(日) 午後1時～4時
④10月25日(日) 午後1時～4時

◆開催場所：協働ステーション中央(小伝馬町)
新型コロナウイルスの感染対策のため、3月26日(木)の待合室活動を最終日に休止状態となり8ヶ月。こんなに長く、こんなに広く影響がでるとは思わなかったあのころ(。；) :

「『子どもまつり』は、できるかな～」「『藤田浩子さんのおはなし会』は、どうなるのかな～」「網膜芽細胞腫の子どもを持つ家族の会の『勉強会保育』は？」
「『病院でプラネタリウム』は？」何日待っても収束の兆しは見えません。苦渋の判断で中止をしたり、延期をしたり…。ついに「クリスマス工場」も、もしかしたら…と迫られ、万が一に備えてスタッフとボランティアでクリスマスカード作成を開始しました。中央区小伝馬町にある協働ステーション中央の会議室は、最大80人収容できますが、コロナ対策のため30名の人数制限がありました。受付には、体温計・手指消毒用アルコール等準備して、4日間でのべ48名の参加がありました。おかげさまで100枚を超えるカードができました。



今年のカードは、「クイリングペーパークラフト」です。

3mm巾の長～い紐状の紙をスロットと呼ばれる道具で、クルクル巻いて、形を整えて、カードに貼っていきます。単純な作業ですが、奥が深くてセンスが問われます(*^▽^*)

「今頃みんなどうしているかな～？」「いつになったらお友だちに逢えるんだらうね？」「待合室活動が再開されたら、お友だちと一緒にクルクルしたいね。」「お友だちの方がきつとじょうずにクルクルしちゃうよね。」カードを作っている最中もおしゃべりの中心は、お友だちのことでした。 サンタさんへのお願いは、

「早くお友だちに遊んでもらえますように…」

今年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行で、自粛生活となり、何も気にせず人に逢ったり、行動できたりすることの幸せを今更ながらに思い知らされています。

一日も早い収束と活動再開を祈りつつ、新しい生活様式に合ったイベント方法を考えて行きたいと思っています。

絵本紹介
静岡県立こども病院医学図書室 塚田薫代

～寄り添うころ～

「だんろのまえで」 教育画劇.2008

ゆらゆら燃えるオレンジ色の炎は、見つめていると心が静まってきます。雪の山で道に迷ったぼくは、あたたかな穴の中のだんろにたどり着きました。迎えてくれたうさぎが云います「つかれたらやすめばいいんだ、むりしないでじっとしていれば げんきになるさ」ねこがゴロゴロのどをならしながら膝にのってきます。重たいけれどあったかくていい気持ちです。眠りから目覚めたぼくは、元気を取り戻して、外の世界へかけてゆきました。当院のお母さんたちに支持される、やさしさ溢れる癒しのストーリーです。



「おなじそらのしたで」 ひさかたチャイルド.2017

「ぼくたちは みんな おなじそらのしたでいきている ここでもとおくでも」にじむように美しいイラストに、珠玉の言葉が込み込みます。動物たちは、親子やペアで寄り添って描かれ、仲間とのきずながよりいっそう温かみを感じさせます。各ページには穴あきのしかけも工夫されています。

看護師の立場から提案

小林文香

マスクでの日常生活が続きますね。周りに人がいないのを確認して、少しマスクをずらして息を吸ってみて下さい。あれ？少し爽やかな気が…そうです。本来は今までその酸素量で過ごしていたのです。マスクの下では常に酸素不足、細胞に十分な酸素が行き渡らず、最近肩こり、頭痛、スッキリ眠れない方も多いのではないのでしょうか。そして臓器で一番酸素を消費するのは、脳…機能維持のため、お家や人気のない公園で、たくさん深呼吸して下さいね。その脳で、実は中年以降に高まる能力がある事が近年わかってきました。

- 感情の反応を司る扁桃体が、ネガティブな刺激に強くなる
- 若い頃には見られない、いくつもの脳の分野を同時に使って考えるシステムがあるというものです。

つまり、感情に左右されにくく、ストレスに強くなり、今までの知恵と経験で多方面から思考する、と加齢に対抗するように、守り杖として生きやすいように、初めから備わっていた機能が、再確認されたのですね。こどもにも無限の伸びやかな可能性があり、年を経ても内面の深い充実と成長があります。「今生きているだけで素晴らしい」どうか、あなたの笑顔はマスクしないで(^^)前向きに頑張ってください。